

## 巻頭言



小野寺 正

### 会長挨拶

我々の大先輩で第17代総長の西澤 潤一名誉教授が10月21日亡くされました。衷心よりご冥福をお祈りいたします。

世の中、AI、IoT、ビッグデータ、ブロックチェーン等の言葉をマスコミで見かけない日はありません。第四次産業革命やSociety5.0が叫ばれ新たな時代を迎えようとしていることは間違いなくと思います。新しい時代の基盤技術が情報通信技術（ICT）であることは疑う余地はありません。その意味では本同窓会の会員の皆さんの活躍範囲がこれまで以上に広がる可能性を秘めていることはうれしい限りです。

私は第四次産業革命がこれまでの第二次・第三次産業革命とは異なった様相を呈していると思っています。これまでの産業革命は人の筋肉を機械に置き換えてきたという意味では第一次産業の延長線上にあったとみています。第三次産業革命は情報革命といわれコンピュータがその基本と言われていますが、コンピュータは人間が書いたソフトウェアに従って動いているだけで、極論すると巨大算盤に過ぎないともいえます。専門家の皆さんには叱られることを覚悟で、算盤の珠を動かすのが人間（指の筋肉）から機械に変わっただけと極論することもできます。しかし第四次産業革命は正しく人の頭脳や感覚が機械に取って代わる今までの産業革命とは異なる様相を呈しています。

第一次産業革命が産業資本主義を発達させ、新聞・ラジオ・テレビ等のマスメディアの発達が議会制民主主義（間接民主制）を生み出しました。自由主義社会は議会制民主主義と産業資本主義が車の両輪となって発展してきたといえると思います。産業資本主義の時代、企業の発展は雇用や税収を通じて国の発展に結びついてきました。当時のグローバル企業は基本的に製造業や貿易業でしたが、全て物理的な「物」の移動を伴い、「製造」「輸出入」「販売」は「国」が掌握可能でした。1980年代以降金融資本主義が米国から世界を席卷し、お金がお金を生む、即ちお金持ちがますますお金持ちになる格差社会を作り出しました。しかも金融資本主義では「国」の概念は無く、金融資本主義の発展が「国」の発展と結びつかなくなりました。第四次産業革命では、GAFAMの様なプラットフォーマーが経済界を席卷し、金融資本主義以上に「国」の概念が無くなっています。

一方SNSに代表される新しいメディアが急速に発展し、マスメディアに支えられてきた議会制民主主義（間接民主主義）に対して疑念を挟む事態になっています。これまで自由主義社会では曲がりなりにもマスメディアに対する「信頼」がありました。しかし、SNSに代表される新しいメディアでは何が「フェイクニュース」なのか一般人には判断がつかない状況が生じ、「マスメディア」、「国」、「政治」、「経済界」といった従来型の「権威」に対する「信頼」が失われているのが実態だと思います。

Society5.0の時代を迎えるなかで、従来型の自由主義社会の両輪である「産業資本主義」と「議会制民主主義（間接民主制）」は変わらざるを得ないと見ています。我々「技術者」はともすれば「技術バカ」に陥り世の中の変化に鈍感になっていたのでは無いでしょうか？もう少し世の中の大きな流れを見る必要があると思います。